

多 度 津 町 経 済 動 向 調 査

《第 4 四半期(2018年1-3月) 調査結果》

1. 調査期間 2018年3月7日～19日

2. 調査対象 会員 4 2 企業に調査票配布 (回収25企業 回収率59.5%)

	製造	建設	卸売	小売	サービス
調査対象	12	9	4	8	9
有効回答	10	4	2	5	4

3. 調査項目 今期 (h 30. 1～3月) を基準に前年同期比、来期予測を今期比にて業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰りの項目について調査。

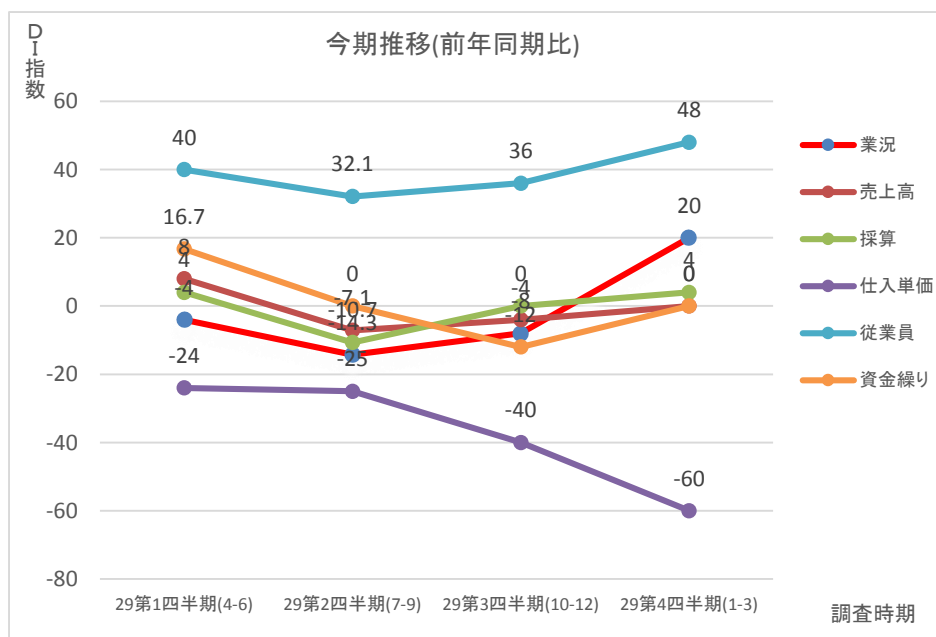
※DI指数は、景況判断状況を表すもので増加・好転などの回答割合から減少、悪化などの回答割合を差し引きし、ゼロを基準としてプラス値で景気の上向き、マイナス値で景気の下向きを表す。

4. 全産業(DI指数分析)

町内の業況は2期連続改善したものの、先行き(来期)は、悪化の見込み。

業況DIは20.0と、前期比28.0ポイントの改善。売上高DI0(前期比4.0ポイント改善)、採算DI4.0(前期比4.0ポイント改善)、仕入単価DI▲60.0(前期比20.0ポイント悪化)、従業員DI48.0(前期比15.9ポイント人手不足感増加)。資金繰りDI0(前期比12.0ポイント改善)。

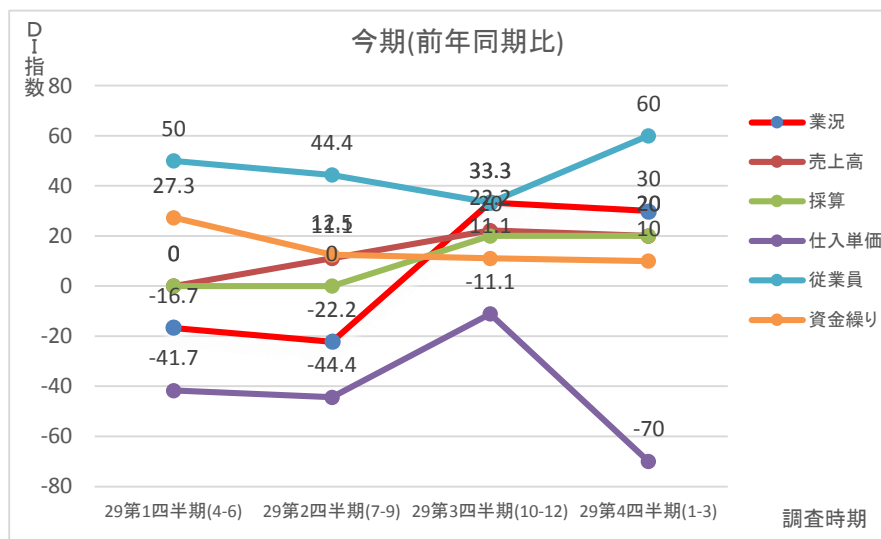
先行きの見通し(来期予測)の業況DIは12.0と、今期比8.0ポイントの悪化。売上高DI▲16.0(今期比216.0ポイント悪化)、採算DI▲8.0(今期比12.0ポイント悪化)、仕入単価DI▲48.0(今期比12.0ポイント改善)、従業員DI48.0(今期比横ばい)、資金繰りDI▲4.0(今期比4.0ポイント悪化)の見込み。



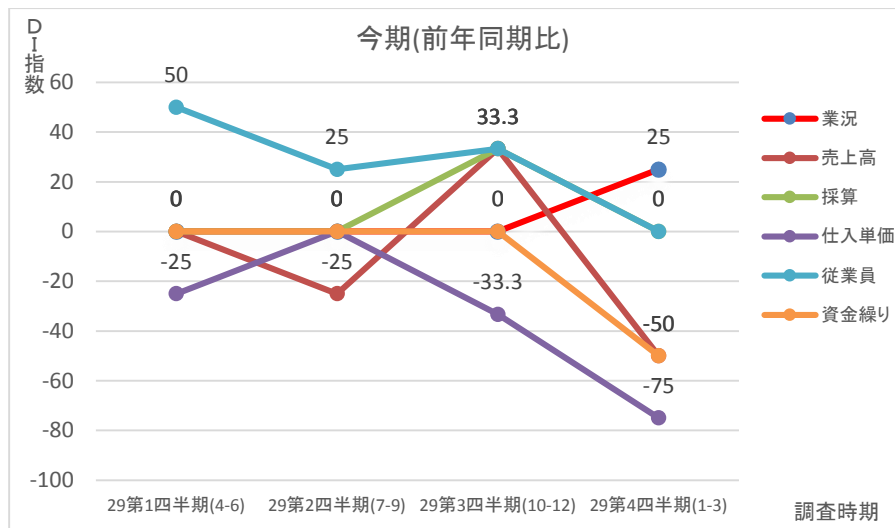
5. 業種別(DI指数分析:前期比)

製造業は、業況3.2ポイント悪化。採算20.0ポイント改善。仕入単価55.6ポイント、売上高2.1ポイント、資金繰り1.1ポイント悪化。従業員26.7ポイント人手不足増加。建設業は、業況25.0ポイント改善。売上高83.3ポイント、資金繰り50.0ポイント、仕入単価41.7ポイント、採算33.3ポイント悪化。従業員33.3ポイント人手不足感減少。卸売業は、業況33.3ポイント悪化。売上高・資金繰り横ばい。採算33.3ポイント、仕入単価16.7ポイント悪化。従業員33.3ポイント人手不足感増加。小売業は、業況50.0ポイント改善。資金繰り45.0ポイント、仕入単価10.0ポイント、採算5.0ポイント改善。売上高横ばい。従業員40.0ポイント人手不足感増加。サービス業は、業況91.7ポイント改善。売上高66.7ポイント、採算・資金繰り50.0ポイント、仕入単価33.3ポイント改善。従業員0.1ポイント増で人手不足感は横ばいで推移。

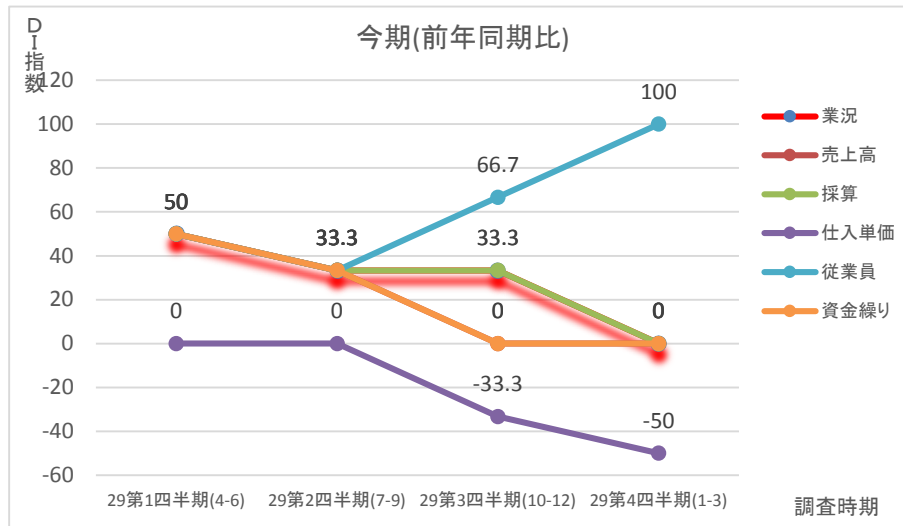
製造業



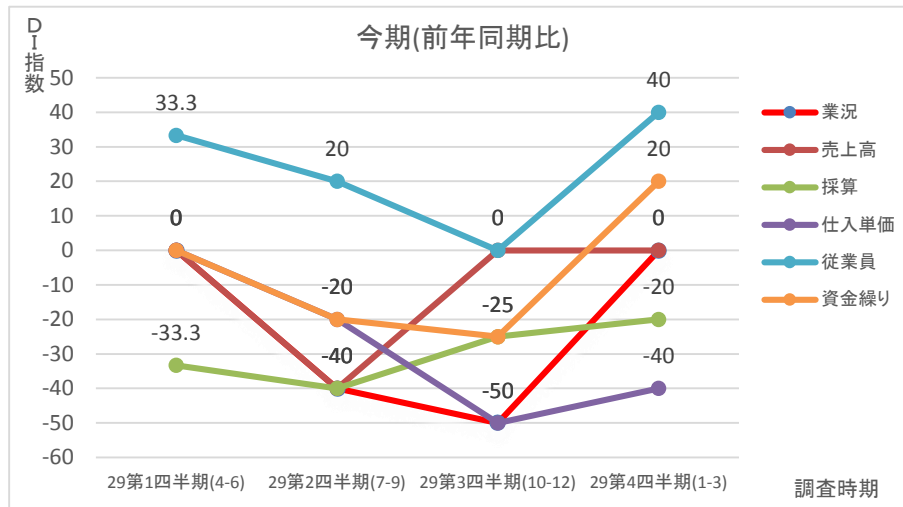
建設業



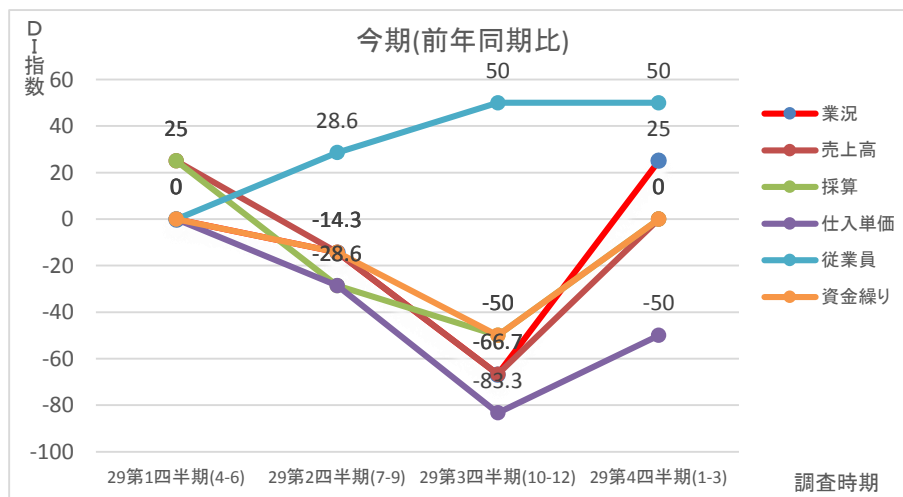
卸売業



小売業



サービス業



【業況感コメント】

- ・新年度に第三工場の増築を予定。4月からの着工で平成31年3月の完成、翌4月からの稼働となります。大型機の生産への対応、老朽化した機械設備の更新、作業環境の整備、生産効率の改善を図る目的で増築を行う予定。(製造業)
- ・市場悪化にともない価格競争が激しく原材料の値上げ、運送費アップにより利益確保が難しくなっている。また、従業員の高齢化が進んでおり人員確保ができず負担が増加している。(製造業)